

ヒゲの校長

映画

Once upon a time in Osaka for the Deaf with Sign Language 1914

日本語字幕付き

参加費
無料

100年前：激動の時代
耳が聴こえない子供たちの小学校で
手話を守った教師達の実話の物語です。



2025
10.19(日) 13:00~(受付12:30)

会場：名寄駅前交流プラザよろーな
(名寄市東1条南7丁目1-10)

●名寄市みんなを結ぶ手話条例10周年記念●

名寄市では「みんなを結ぶ手話条例」を平成27年3月に制定し、聴覚障害者への理解、聞こえない人たちの命である手話への理解、衆知を促進するための取組を進めています。

主催：上川北部聴覚障害者協会・名寄手話の会
共催：北海道手話サークル連絡協議会・名寄市

【映画について】

皆さんは、耳がきこえない人と話されたことはありますか。筆談、ジェスチャー、口元を見せてゆっくりはっきり話すなど、さまざまなコミュニケーション方法がありますが、その中で手話をメインにして話す人たち「ろう者」がいます。ろう者にとって**手話**はかけがえのない言葉です。

ろう・難聴の子どもたちが通う**ろう学校・聴覚支援学校**では、手話が使われてきたのだろう…そう、多くの方が思うでしょう。ところが、大正の終わり頃から最近までろう学校では手話は禁止・制限されていました。「**口話法**」と言って発声し、相手の口の動きを読みとる方法が急速に広がり、口話法を進めるには手話は不要なものとされてしまったからです。きこえない子どもが訓練によって話せるようになる…、なんと素晴らしいことだろうと、ろう者のことを知らない人は思うかも知れません。

しかし、口話法を身につけさせるために、かつての口話訓練は、つい手話で話してしまう子どもは叩かれ、両手を縛られもした苛酷なものでした。おおっぴらに手話ができないろう者たちはずっと苦しみました。

そこに疑問をもち、個々の子どもに合わせて手話と口話を取り入れる教育を進めた学校がありました。この映画の舞台となる**大阪市立聾唖学校**です。

映画『ヒゲの校長』は、**校長 高橋 潔**を中心に教師たちがスクラムを組んで、手話を守り続けた実話がもとになっています。愛情と信念をもって子どもらに接した高橋と「チーム高橋」の教員たち、高橋に献身的に寄り添った家族…戦争にあげくれた困難な時代に、ろう者と共に生きた人々の物語です。

どうぞ、ご家族、お友だちとご一緒にお越しください。



【昭和8年 大阪市立聾唖学校】
～ 高橋校長ときこえない先生たち ～

□



【あらすじ】

大正3年仙台から大阪へ、青年高橋潔は、恩師の紹介状を持って大阪市立聾唖学校の門を叩いた。家の事情にて海外留学し音楽家を目指す夢をあきらめ、失意にあった高橋。

そんな彼の前に現れたのは、家から追い出され、警官に連れられて来た正一君。耳がきこえず、会話できないもどかしさで暴れる正一君に、高橋は寄り添い、手話を覚え、彼と共に歩みだす…。手話やろう者のことを高橋先生に教えるきこえない先生たち…。

しかし、時代は大きく変わる。「口話法」という嵐が全国の聾学校に吹きまくり、口の動きを読み取り、発語できるようにするためには手話は禁止するべきと、ほとんどの学校が手話を抑えていった。

ろう者の言葉である手話がつぶされそうになっていく中、手話とろう者を守るべく、高橋校長と先生たちは一丸となって時代にあらがおうと立ち上がった…。